

**製品名: E2F-1 (リン酸化 Thr433) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04570**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	E2F1
別名	E2F1; RBBP3; Transcription factor E2F1; E2F-1; PBR3; Retinoblastoma-associated protein 1; RBAP-1; Retinoblastoma-binding protein 3; RBBP-3; pRB-binding protein E2F-1
遺伝子 ID	1869.0
SwissProt ID	Q01094
免疫原	抗血清は、Thr433 のリン酸化部位周辺のヒト E2F1 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 388-437

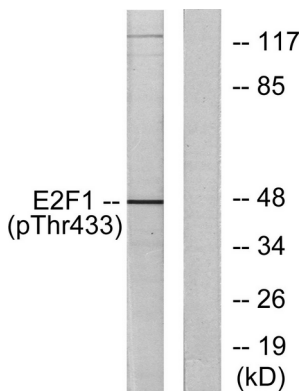
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子の E2F ファミリーのメンバーです。E2F ファミリーは、細胞周期と腫瘍抑制タンパク質の作用の制御に重要な役割を果たしており、小さな DNA 腫瘍ウイルスの形質転換タンパク質の標的でもあります。E2F タンパク質には、ファミリーのほとんどのメンバーに見られる進化的に保存されたいくつかのドメインが含まれています。これらのドメインには、DNA 結合ドメイン、分化調節転写因子タンパク質 (DP) との相互作用を決定する二量体化ドメイン、酸性アミノ酸に富む転写活性化ドメイン、および転写活性化ドメイン内に埋め込まれた腫瘍抑制タンパク質関連ドメインが含まれます。このタンパク質と他の 2 つのメンバー、E2F2 および E2F3 には、追加のサイクリン結合ドメインがあります。このタンパク質は、細胞周期依存的に網膜芽細胞腫タンパク質 pRB に優先的に結合します。機能: 細胞周期調節や DNA 複製に関与する遺伝子のプロモーター領域に存在する、E2 認識部位 5'-TTTC[CG]CGC-3' を介して dp タンパク質と協調的に DNA に結合する転写活性化因子。DRTF1/E2F 複合体は、G1 期から S 期への細胞周期の進行を制御する機能を持つ。E2F-1 は、細胞周期依存的に RB1 タンパク質に優先的に結合し、細胞増殖と p53 依存性アポトーシスの両方を媒介できる。PTM: S 期に CDK2 およびサイクリン A-CDK2 によってリン酸化される。類似性: E2F/DP ファミリーに属する。サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素。DP ファミリーのメンバーとヘテロ二量体を形成する。E2F-1 複合体は、低リン酸化網膜芽細胞腫タンパク質 RB1 に特異的に結合細胞周期中、RB1 は G1 期中期から後期にかけてリン酸化され、DRTF1/E2F 複合体から分離し、E2F を転写活性化させる。ウイルス性腫瘍タンパク質、特に E1A、T 抗原、HPV E7 は RB タンパク質を隔離し、活性複合体を放出する。RB1 は TRRAP と相互作用し、TRRAP がヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体との相互作用を媒介して転写活性化を引き起こすと考えられる。TOPBP1 および EAPP に結合し、ARID3A と相互作用する。

## 研究分野

幹細胞経路; 細胞周期 G1S; 細胞周期 G2M\_DNA; タンパク質アセチル化

## 画像データ



エトポシド 25 $\mu$ M で 24 時間処理した HeLa 細胞のライセートを、E2F1 (リン酸化 Thr433) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。